

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月23日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒に育みたい力をつけ希望進路を実現するための教育課程の編成と履修指導の充実を図る。 ②学力向上を図り学習意欲を高めるために言語活動など生徒の主体的な学習活動を積極的に取り入れた授業改善を進める。	①一人ひとりの学力を伸ばし、希望進路の実現につながるカリキュラムの構築、履修指導を行う。 ②生徒の発展的学習の機会を充実させる。	①生徒の自発的な履修活動及び教員の履修指導に、ガイドブックが有効に活用されるような指導、研修を行う。日本語を母語としない生徒への学習支援をカリキュラムの面から支援する。 ②分野科目の解消に努めるとともに教科の発展科目を充実させる。授業改善の一環として、授業公開の機会を増やす、また、教材研究のノウハウを共有するための研修、アンケートを実施する。	①生徒の自発的な履修活動及び教員の履修指導に有効な指導や研修ができたか。日本語を母語としない生徒に対し、学習支援、進路実現につなげるカリキュラムを構築できたか。 ②新しい教科の発展科目を立ち上げることができたか。授業改善ができたか、教材研究のノウハウが共有できたか。	①有効な履修指導が行えるよう教員向け履修指導研修会を複数回実施するとともに機会を捉えて担当グループ員がフォローアップを行った。 ①日本語を母語としない生徒に対し、外国人支援担当者会議と連携して定期考査前の学習支援、個別授業の設定などをおこなった。 ②カリキュラム検討会議を通して、新しい科目の設定を準備した。授業研究研修会、講演会を実施して授業改善に努めた。	①生徒のキャリアに対する意識が直近の進学などにしか目が向いていないなど十分とはいえない状況が見受けられる。長い目で見たキャリアを踏まえた履修もできるような指導を取り入れる。学務 ①学習支援を有効に活用し参加する生徒の人数を増やすため、日ごろから生徒のニーズを把握する。 ②新教育課程を見据えた校内体制準備のため、授業研修などで職員の共通認識を高め、新教育課程の理念や今後の流れを学習する機会を設ける必要がある。	・履修指導について、保護者にも理解できるような冊子などがあれば親子で話をしやすいと思う。 ・新学習指導要領の中で「授業改革」アクティブラーニングが望まれている。日頃から意識的・継続的に取り組むことが必要である。 ・生徒の様々な興味を引き出すことで取組が向上していくのではないかと。	①・丁寧な履修指導により生徒の自発的な履修活動が充実した。分野科目等、生徒の希望進路や興味関心に基づく科目選択で、抽選や閉講しななければならない講座が生じた。 ②授業研究研修会を、公開授業、講演会を中心に4回実施した。	①・履修指導にキャリア教育の視点をより一層取り入れる。個々の時間割の調整や講座の時間設定の工夫により、生徒の科目選択の希望が叶うように努力する。 ・日本語を母語としない生徒向けの講座の開講を目指す。 ②新学習指導要領・共通テスト対策の学習会を実施する。
2 生徒指導・支援	①生徒一人ひとりが互いに尊重しあうことのできる人間関係づくりに努め、支援の必要な生徒に対する支援体制の更なる充実を図る。	①学校全体で、外国人生徒の受け入れ体制の充実を進める。	①外国人生徒支援担当者会議が中心となり、外部との連携を深めながら支援体制を構築する。また、学校全体で文書のルビ振り、プリントの工夫などを行う。 ②部活動オリエンテーションを通じて、部活動の勧誘を行	①校内の取り組みに加えて、外部との連携を深めながら支援体制を構築することができたか。 ②新入生の入部率の	①外国人生徒へのルビ振りやプリントの工夫、学習支援など具体的な支援をおこなった。また、多文化共生委員会を立ち上げ、外部との支援体制を進めた。 ①Me-netなどの外部団体と連携して、ふらっとカフェの開設や学習支援を実施した。 ②新入生の入部率は60%。特に活躍が目立ったのは男子	①外国人生徒への学習環境をさらに充実させるために、ICTの利活用や掲示物の工夫、柔軟な履修指導を行う。また、他校の取組を情報収集し、支援体制の改善を図る。 ①Me-netなど外部団体と連携が定着しつつあるので、継続していく。 ②入部率を高める具体的	・外国人生徒の受け入れについては、日本人生徒の意識変革も重要。「多文化共生委員会」等の活性化、協働など積極的な取組を期待する。 ・学校生活に慣れることのできない、慣れるま	①外国人生徒支援担当者と外部との連携を深めながら、外国人生徒の支援体制を構築することができた。外国人生徒が活躍できる、多様な学習機会と学びの環境をさらに充実させていくことが課題である。 ②部活動によって身	①「多文化共生委員会」と外部組織との活発な交流や、外国人生徒への支援が、いつでも行える学習環境を整備する。外国人生徒への支援による成果を明確にする。 ②中学生の部活動に

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月23日実施)	総合評価(3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	②社会の中で生きていくために必要な力を育成する。	②部活動の活性化を図り、生徒の自主性を高める。	う。部長会を通じて、大会やコンクールの目標づくりに取り組む。	向上を図ることができたか。 部活動でより多くの実績を残すことができたか。	バスケットボール部、陸上部(定時制)、軽音楽部。	方策をグループ内で検討する(部紹介の動画の活用、中学生の見学機会の拡充等)。	でに時間がかかる生徒への支援方法を工夫する必要がある。	につく力について啓発し、スムーズな入部を実現するために部活動オリエンテーションのあり方を工夫する。	対する関心は極めて高いため、学校説明会等で情報を提供できるようにする。
3	進路指導・支援 生き方や社会を学ぶ機会の充実を図るとともに、生徒の希望進路実現のための支援体制を充実させる。	学習の充実を図るために指導体制を確立する。	各年次において適切なガイダンスを行うなど、ガイダンス機能を充実させる。	生徒のニーズに合ったガイダンスを的確に用意することができたか。	進路ガイダンスを各年次で実施し、自らの進路への意識づけを行った。年次ごとの対応になり、生徒のニーズに合った3年間の体制を構築できなかった。	今年度行ったガイダンス等について、各年次の意見を集約し、フィードバックを行う。グループ内でガイダンス・実力テスト・補習等の中身・方法を検討して、3年間を見通した計画を作り、提案していく。	・生徒のニーズに合った進路ガイダンスが行われているのか保護者にはわかりにくい。 ・年齢の近い卒業生の話聞くような機会があるとよい。	ガイダンス等で生徒の進路へ興味関心の促進を行ったが、生徒に対してガイダンスの効果を継続させることが難しかった。	3~4年間のガイダンス等の計画を見直し、しっかりと生徒に周知する。事前・事後の指導ための時間を十分にとる。保護者会では生徒に行っている取組等について都度説明する。
4	地域等との協働 ①地域に貢献し地域に信頼される学校づくりを進める。 ②生徒が地域の中で学ぶ機会の充実を図る。	①②学校行事、部活動、委員会活動、インターシップ等を通じて、地域と関わる機会を設ける。	①部活動、委員会活動とした地域交流を充実させる。文化祭において地域の人々と積極的な交流を図る。 ②インターシップ、高大・高専連携、公開講座・セミナー、社会人聴講生などの内容を充実し、生徒、地域の人々の参加の機会を増やす。	①部活動、委員会活動による地域交流の機会が増えたか。文化祭で地域の方が大勢入場したか。 ②生徒や地域の人々が参加、交流する機会を増やすことができたか。	①地域との交流を多くの部活動が行った。(例:養蜂部、軽音楽部、茶道部、ボランティア部) ②生徒と地域の交流の場、地域の人々に対する学習機会、支援の場を設定し、生徒や地域の人たちから一定の評価を得ている。	①文化祭では、有意義な展示発表が見られた。(例:環境、保健、美化、図書委員会) ②高大連携は参加者が一人もいない状況になってしまったので、履修指導、説明会や生徒への宣伝方法を工夫する必要がある。	・地域の方々と交流や公開講座などもっと多くの近隣の方に知っていただけよう広報を充実させる。 ・生徒が多く参加する地域清掃活動などを考えてはどうか。	①文化祭やハニーフェスタ等を通じて地域の方々と交流を行うことができた。 ②公開講座、公開セミナーは今年度も地域の参加者から一定の評価を得ることができたが、高大連携、高専連携の参加者が年々減少している。	②広報の活動を見直し、高大連携の参加者を増やすとともに、公開講座、セミナーの内容の見直しを行う。 ・ホームページや自治会等への広報活動を充実させる(生徒が作成したチラシの掲示・回覧の可能性を探る)。
5	学校管理 学校運営 ①生徒、保護者、地域に信頼される学校運営を行う。 ②教職員間での情報の共有化と協力体制の構築を図る。	①②HP・学校説明会等の情報発信を充実させる。	①どの受検生にもわかりやすく、在校生の姿が伝わるような説明会を運営する。 ②HPの内容の更新を迅速に行う。	①本校への理解を深めることができたか。 ②HPの内容の更新を月に2回以上行うことができたか。	①学校紹介ムービーやパネルの内容を検討、新規に作成した。説明会への生徒の参加も定着してきた。各説明会でのアンケートも概ね好評である。 ②更新すべき情報に季節性があり、更新すべき情報がないこともあり、月に2回以上更新ができないこともあった。	①アンケートの内容を反映させながら、説明会の時期や回数等について検討する。 ②管理グループのHP担当が部活動顧問に情報の提供を促したり、各グループのHP担当に更新を促して随時の更新を目指す。	もっと情報をマメにアップして欲しい。在校生のみ見られるページに研修旅行の写真などをアップして欲しい。	①アンケート結果に基づき次年度の説明会の日程を決定した。今後は内容の精選を進める。 ②情報の更新を、グループの業務に位置づけ積極的に情報の更新を心がける必要があった。	①説明会については生徒が学校生活について説明する機会を増やす。 ②HPの取りまとめという立場で受け身になりがちだが、積極的に部活動顧問や各グループの担当に情報の更新を促す。